

学校法人桜花学園


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	芸術の世界	担当者	石山 英明, 基村 昌代, 田端 智美	開講学科等	桜大 全学 共通	授業意形態	講義
免許・資格				開講時期 単位数	前期 2	配当学年 必須・選択	1 選択必須

**授業概要と方法****【担当者の実務経験】高等学校教諭**

この授業科目では、元高等学校教諭での経験を踏まえ、美術の鑑賞分野において中・高校時を通した継続的な学びを行う。また、芸術史（特に美術史）の学修を通して文化を理解し、教養を身につけることができるようとする。

本授業は、桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教養科目である。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するというものである。本授業では、音楽・美術等、芸術に関して多角的に幅広く講義し「芸術とはなにか」を追求する。芸術の細かな知識を身につけるのではなく、世界共通の文化として概略的に理解・経験することを目標とし学修する。音楽作品と美術作品を様々な形式で鑑賞し、講義と併せて授業を展開する。

**授業の到達目標**

- ①芸術とは何かを理解できるようにする。
- ②芸術を鑑賞する力や方法を身につける。
- ③芸術を実際に体感・鑑賞し、芸術に対する理解を深める。

**授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）**

- ・美術館・音楽会等に参加して芸術鑑賞を自らすんで行うこと。

**評価方法**

・レポート評価(50%)、毎回の授業の終わりのリフレクション等（省察・振り返り：ミニツッペーパー等を記述）への対応（30%）、授業への参加態度（20%）を対象として総合評価を行います。

**教科書**

適宜プリントを配布します。

**参考図書**

その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）

「芸術」は幅の広い概念です。普段から「芸術」に興味を持って、自らの幅を広げましょう。連絡はisiyama@ohkagakuen-u.ac.jpまで。

**授業計画**

1	ガイダンス・オリエンテーション	(石山・基村・田端)
2	総合芸術について (基村)	
3	ミュージカル「サウンドオブミュージック」が伝える様々な「愛」 (基村)	
4	オペラ「カルメン」からみる女性像 (基村)	
5	バレエ「白鳥の湖」の哀愁漂う幻想の世界 (基村)	
6	モナリザはだれ？ レオナルド・ダ・ビンチを中心に (田端)	
7	ピカソは本当に上手なの？ ピカソを中心 (田端)	
8	絵と会話してみよう！子どもの美術鑑賞を中心に (田端)	
9	音楽史に沿ってクラシック音楽を学ぼう① (バロック・古典派編) (石山)	
10	音楽史に沿ってクラシック音楽を学ぼう② (ロマン派・近現代編) (石山)	
11	芸術に関する映画鑑賞 (石山)	
12	音楽会に行ってみよう (ゲスト講師による演奏会) (石山)	
13	美術館に行ってみよう (田端)	
14	美術館に行ってみよう (田端)	
15	まとめ・レポート提出 (石山・基村・田端)	
16	なし	

学校法人桜花学園


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	保育実習Ⅰ（保育所）	担当者	太田早津美、基村昌代、野口啓子	開講学科等	保育学部 保育学科	授業意形態	実習
免許・資格	保育士資格			開講時期 単位数	後期 2	配当学年 必須・選択	2 選択

受講要件 保育実習指導Ⅰ（保育所）の受講を修了したものの（事後指導は実習後）

## 授業概要と方法

## 【担当者の実務経験】保育園長

この授業では、元保育園長の経験を活かし、保育所保育における保育士の役割や職員間の連携の在り方、保護者対応などを、実体験を通して学ぶための実習生としての態度や視点について指導する。

保育所における保育士の役割は、子どもの保育と保護者の指導や子育て支援が含まれる。そうした保育士の職務を実際に体験することで理解し、保育所の社会的役割や、子ども理解、保護者理解をしていく。

## 授業の到達目標

保育を実際に体験することにより、子どもの姿や子どもと保育士の関わり方、援助の仕方などが理解でき、学生の保育に生かされ、保育技術や実践力として身につく。臨機応変な対応や判断力を学ぶ。

## 授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）

実習に先立ち保育実習Ⅰの事前指導での学びをよく確認する事。事前準備をしっかりと行い、ゆとりをもって実習できるようにする事。保育実践に役立つ手遊び・歌遊びや年齢に応じた教材研究をしっかりとしておく。

## 評価方法

実習園からの評価60%、実習日誌20%、実習事後レポート10%、その他（実習への意欲・実習状況など）10%を総合して判断する

## 教科書

実習ハンドブック 保育実習Ⅰ（保育所）の手引き2018 保育所保育指針

## 参考図書

その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）

実習前から健康管理に気を付け、遅刻、早退・欠席をせず、充実した実習ができるよう心がけること。実習ハンドブックや手引きに従い実習を行うこと。再履修する学生も、保育実習指導Ⅰを再受講することが原則。（研究室 太田7402 野口7417 基村7420）

## 授業計画

各地域の指定保育所において、2週間の実習を行う。〔保育実習Ⅰの形態〕 保育所での2週間の実習で、観察・参加・指導という形態が中心となる  
 ・保育所保育士の保育や業務の実際  
 ・保育所の施設設備・地域家族との関係・各年齢の子どもの発達  
 ・保育所での子どもの生活や遊びの姿・保育士の子どもの関わり方の実際・食事の内容や指導  
 ・部分実習、全日実習の指導案作成・保育記録などを体験的に学ぶ  
 教務課実習担当  
 (0562-97-5503)

学校法人桜花学園


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	保育実習指導I（保育所）	担当者	太田 早津美、基村 昌代、野口 啓子	開講学科等	保育学部 保育学科	授業意形態	演習
免許・資格	保育士資格			開講時期	前期	配当学年	2
受講要件				単位数	1	必須・選択	選択

**授業概要と方法****【担当者の実務経験】保育園長**

この授業では、保育園長としての経験を活かし、子どもとかかわることの楽しさや保育士としてのやりがいを伝えながら、実習に際して必要な知識や態度が身に着けられるように指導する。

保育実習I（保育所）の事前指導として、保育所に関する知識、実習の意義や実習のあり方、具体的な指導法や実習の心構えを学ぶ。実習後においては、自己評価を行い自己の課題に気づき、事後指導が次の実習に生かせるようにする。全体講義と演習の方法で行い、確認事項等が確実に伝達され、実習に支障がないようにする。

**授業の到達目標**

保育所の保育についての理解と子ども理解を学ぶとともに保育士の職務について理解する。実習前に具体的な指導案や記録の具体的な書き方を学び、実習に向けた準備や実践力と意欲を高める。実習後は自己の課題を明確にし改善を図る。

**授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）**

実習前に担当する年齢の発達や特徴について十分理解しておく。年齢にあった教材研究や部分実習のための準備を早めにしておく。子どものモデルとして恥ずかしくないよう、日頃から態度や言葉に気を付け、保育士としての自覚を持つ。健康管理に気を付け、体力づくりをしておく。

**評価方法**

事前の課題（指導案作成、模擬保育など）50% 事後課題（実習レポートなど）40% 授業への意欲、10% を総合的に評価する。欠席遅刻に対しては特に厳しく対処する。

**教科書**

フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画。保育所保育指針<29年告示>

**参考図書****授業時に適宜紹介****その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）**

実習を行う前提としての授業なので、履修しない者、無断欠席をした場合は実習の履修資格を失う。時間割以外の曜日にも適宜行われるので、間違いのないように出席する事。実習の再履修学生も、保育実習指導を受けることが原則（研究室 太田7402 基村7420 野口7417）

**授業計画**

- |    |                                  |
|----|----------------------------------|
| 1  | 保育実習I（保育所）①保育所実習オリエンテーション・実習の心構え |
| 2  | ②保育実習の流れの説明と諸注意                  |
| 3  | ③保育所の説明と保育所の生活の流れについて            |
| 4  | ④教材研究                            |
| 5  | ⑤指導計画の作成について                     |
| 6  | ⑥指導計画の作成と展開                      |
| 7  | ⑦健康指導・必要書類の作成（実習先発表）             |
| 8  | ⑧記録の書き方                          |
| 9  | ⑨直前指導                            |
| 10 | ⑩事後指導                            |
| 11 |                                  |
| 12 |                                  |
| 13 |                                  |
| 14 |                                  |
| 15 |                                  |
| 16 | )                                |

学校法人桜花学園


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	教育実習Ⅱ・Ⅲ（幼稚園）	担当者	松永 康史, 辻岡 和代, 上村 晶, 森川 拓也, 吉田 真砂	開講学科等	保育学部 保育学科	授業意形態	実習
免許・資格	幼稚園・小学校教諭1種免許状			開講時期	後期	配当学年	3
受講要件	教育実習指導Ⅱの授業欠席が3回未満の学生・実習契約書の内容を遵守できる学生			単位数	4	必須・選択	選択

**授業概要と方法**

## 【担当者の実務経験】幼稚園教諭

本科目は、幼稚園教育実習における実践的な学びを体験・学修する。特に、元幼稚園教諭の立場から、実習現場が実習生に求める実践的指導力などを事前に具体的に提示したり、訪問指導時等で学生と共有したりする中で、幼稚園教育実習における学びを学生が更に深めることができるようとする。

教育実習Ⅰの学びや体験を活かして、自ら課題を持ちながら幼児・児童と関わる中で、初等教育の基本・教師としての職業倫理などの理解を深め、発展的な知識・技術・態度の実践的な履修をめざす。同様に、修得した理論を自ら応用しながら実践することを通して、教師としての専門性や資質を理解し、自らの保育観・教育観をもつようとする。

**授業の到達目標**

①幼稚園の役割や機能について実際に即して学ぶ、②幼稚園に就園している幼児の実際の姿や活動を通して幼児の理解を深める、③観察、参加、指導実習（部分・全体）等を通して、幼稚園の教育・保育の実際に体験的に学ぶ、④幼稚園教諭の職務内容について実際に即して学ぶ、⑤地域の幼稚教育センターとしての幼稚園の役割について実際に即して学ぶことを通して、幼稚園と家庭・地域等との関係について理解を深める、⑥幼小の連携について理解を深める。⑦幼児及び児童の教育・保育に関する自らの問題意識や課題意識を実際に即して検証し深める。

**授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）**

①実習の実施に先立って、教育実習指導Ⅱで学んだことをよく確認すること。②事前訪問時に実習園からいただいた指導をよく確認して、実習の事前準備をすること。

**評価方法**

実習園からの評価60%、実習日誌20%、実習事後レポート10%その他（実習への意欲・実習状況・巡回指導報告書など）10%を総合して評価する。

**教科書****教育実習Ⅱハンドブック****参考図書**

幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書

## その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）

①本実習を行うに当たり、原則、当該年度の「教育実習指導Ⅱ」を履修することが条件となります。（未履修者は本実習にさんかすることはできません。）②実習期間中の遅刻・早退・欠席等については、事前にその旨を申し出、許可を受けること。特に欠席の場合は大学にも連絡すること。（急病などで欠席する場合は、実習園には午前8時30分までに、大学には午前9時30分までに電話連絡すること。大学の受付は教務課実習担当：0562-97-5503）③合計実習時間が120時間に満たない場合は、必ず延長実習を行うこと。

**授業計画**

【教育実習Ⅱ】実習実施期間：2019年11月18日（月）～12月6日（金）15日間【実習概要】幼稚園における120時間（計15日間）の実習を通して、観察・参加・指導実習（部分・全体）を体験する。【主なねらい】①観察・参加を通して、幼稚園での子どもの姿、幼稚園教諭の教育や園務の実際、家庭や地域との関係、施設・整備・環境構成等、幼稚園教育のあり方全体について、体験を通じた理解を課題とする。②参加・指導実習（部分・全体）を通しては、子どもの発達の姿、教育の実際、幼稚園教諭の職務の実際、幼稚園の役割や機能、家庭


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	教育実習指導Ⅱ・Ⅲ（幼稚園）	担当者	松永 康史, 辻岡 和代, 上村 晶, 森川 拓也, 五十嵐 瞳美, 吉田 真砂	開講学科等	保育学部	授業意形態	講義
免許・資格	幼稚園・小学校教諭1種免許状	開講時期	前期・後期	配当学年	3		
受講要件	当該年度の教育実習Ⅱ・Ⅲの履修を希望していること・教育実習Ⅰ（1年後期）を履修済みであること	単位数	2	必須・選択	選択		

**授業概要と方法****【担当者の実務経験】幼稚園教諭**

本科目は、元幼稚園教諭としての経験を活かしながら、幼稚園教育実習における実習生の学びの深め方について、具体的に検討する。また、実習現場で求められる指導計画や実践的指導力などを具体的に検討・共有することを通じて、幼稚園教育実習に必要な知識・技能などを体験的に学ぶことができるようとする。

教育実習Ⅱのための事前事後指導としての本授業では、実習のあり方、指導案の作成、実習への心構えを学び、実習後の振り返り、自己課題を明らかにし、今後の課題に活かしていく。

**授業の到達目標**

①小学校・幼稚園教育実習の意義や目標を理解する、②実習の心構えを学び、実践に必要な準備に自ら取り組む、③観察実習、参加実習、責任実習の内容について理解し、準備、実践、振り返りに意欲的に取り組む、④実習終了後、実習への取り組みを振り返り、自己課題を把握し、今後の学習や就職に活かしていく。

**授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）**

1・2年の実習を踏まえて、本実習ではさらに何を学びたいのか自己課題を明確に持てるよう自ら進んで事前学習をすること。そのために、各自で「実習ノート（実習ファイル）」を作成すること。

**評価方法**

事前課題（ワークシート・指導案発表）50%、事後課題（実習ノート・事後課題発表ワークシート）40%、授業への意欲10%を総合的に評価する。

**教科書**

教育実習Ⅱハンドブック（大学から配布）

**参考図書**

小学校学習指導要領、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書

その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）

公欠以外の理由で事前指導を3回以上欠席した学生、特別な理由なく無断で授業を欠席した学生は、実習を実施することができなくなります。授業を欠席する場合は、その前後に必ず、教務課または授業担当教員に直接連絡をしてください（要課題）。

**授業計画**

- 1 教育実習Ⅱの課題と事前事後指導の計画的理解
- 2 幼稚園・小学校における授業や保育の理解—幼児教育の実際—
- 3 幼稚園・小学校における授業や保育の理解—小学校教育の実際—
- 4 幼稚園・小学校における授業や保育の理解—特別な支援を要する幼児・児童への支援（1）—
- 5 幼稚園・小学校における授業や保育の理解—特別な支援を要する幼児・児童への支援（2）—
- 6 学年別の発達過程に関する理解（1）
- 7 学年別の発達過程に関する理解（2）
- 8 学年別の発達過程に関する理解（3）
- 9 事前訪問のための学内指導
- 10 教育実習における教育指導案の書き方
- 11 学年別の指導案の作成と発表（1）
- 12 学年別の指導案の作成と発表（2）
- 13 学年別の指導案の作成と発表（3）
- 14 教育実習に向けての幼児理解と記録
- 15 教育実習事前指導（教師としての心構え）
- 16 教育実習事後指導（1）学びの振り返り

学校法人桜花学園


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	国語科教育法	担当者	森川 拓也	開講学科等	保育学部 保育学科	授業意態	講義
免許・資格	小学校教諭1種免許状			開講時期	前期	配当学年	2
受講要件				単位数	2	必須・選択	選択

**授業概要と方法****【担当者の実務経験】小学校教諭**

この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、小学校で国語の授業を行うための具体的指導方法を学ぶ機会を具体的に展開していく。また、小学校における教育活動の構成や子どもへの支援のあり方について実践的に学べるようにする。

小学校における国語科教育の目標・内容のすべてにわたっての基礎を学んだ上で、国語科の授業を担当するための知識・技能・教材研究の方法・学習指導の方法を具体的に学び、習得します。グループ・ワーク、ディスカッション・発表などを数多く行います。

**授業の到達目標**

小学校国語科の目標・構成・評価に関わる基礎的な内容を理解し、国語の具体的授業像をもつ。教材研究・指導計画立案等の方法を理解し、授業実践力を高める。国語の授業づくりへの意欲をもつ。

**授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）**

教材を読んで課題を考えておいたり、参考資料を調べたりすること、またそれぞれで教材研究を行うことなどがあります。

**評価方法**

授業に参加する姿勢・活動（20%） レポート・課題・提出物・発表（40%） 筆記試験（40%）以上を総合して評価します。

**教科書**

小学校学習指導要領解説 国語編

**参考図書**

適宜紹介します。

**その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）**

国語辞典が必要です。（電子辞書も可） 各回に配付する資料は失くさないようにしてください。連絡先・手段は授業時に伝えます。

**授業計画**

- 1 オリエンテーション（現在の現場で求められる国語の力についての理解）
- 2 国語科教育の目標と内容（新学習指導要領の理解）の授業への具体化についての理解
- 3 国語の授業と子どもの学習能力の育成についての理解
- 4 国語の授業の具体例から学ぶ（授業映像の分析・検討）
- 5 教材研究から授業づくりへ① 文学教材をどう読み、どう指導するか（教材研究）
- 6 教材研究から授業づくりへ② 文学教材をどう読み、どう指導するか（発問検討）
- 7 教材研究から授業づくりへ③ 文学教材をどう読み、どう指導するか（指導案作成）
- 8 模擬授業演習① 実践と振り返り
- 9 教材研究から授業づくりへ④ 説明文教材をどう読み、どう指導するか（教材研究）
- 10 教材研究から授業づくりへ⑤ 説明文教材をどう読み、どう指導するか（指導案作成）
- 11 教材研究から授業づくりへ⑥ 「話すこと・聞くこと」をどう指導するか
- 12 教材研究から授業づくりへ⑦ 「書くこと」「言語文化」をどう指導するか
- 13 教材研究から授業づくりへ⑧ 発問検討・指導案作成
- 14 模擬授業演習② 実践と振り返り
- 15 まとめ
- 16 筆記試験


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	社会科教育法	担当者	松永 康史	開講学科等	保育学部 保育学科	授業意態	講義
免許・資格	小学校教諭1種免許状			開講時期	前期	配当学年	2
受講要件				単位数	2	必須・選択	選択
<b>授業概要と方法</b>							
【担当者の実務経験】小学校教諭 本授業科目では、元小学校教諭の経験を踏まえ、小学校社会科における指導計画の作成や教材研究の方法について、体験的に学ぶことができるようになります。 学習指導要領解説から社会科教育の目標や内容等を理解し、先人のこれまでの社会科授業実践から学ぶ。そのうえで、社会科授業づくり（教材研究、指導計画、学習指導案の作成など）を通して、指導力を身につける。							
<b>授業の到達目標</b>							
社会科教育の目標、内容、指導計画等を理解し、問題解決的な学習の充実を見据えた教材研究や学習指導案の作成、授業実践の分析を通して、実践的な指導力を身につける。							
<b>授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）</b>							
新聞やニュースなどから社会事象、社会問題に目を向ける。社会科教育内容と関連して、地域やメディアなどから教材になりそうなものを探す。							
<b>評価方法</b>							
定期試験80%、授業への参加態度20%							
<b>教科書</b>							
小学校学習指導要領解説 社会編							
<b>参考図書</b>							
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）							
オフィスアワー木曜日休み							
<b>授業計画</b>							
1	社会科教育の目標						
2	社会科教育の内容と学習指導						
3	日本における社会科教育の歴史						
4	社会科教育における授業理論						
5	授業実践の事例検討①3年生実践						
6	授業実践の事例検討②4年生実践						
7	授業実践の事例検討③5年生実践						
8	授業実践の事例検討④6年生実践						
9	学習指導案の作成と内容、作成手順						
10	学習指導案の作成①教材研究						
11	学習指導案の作成②指導計画・単元構想の検討						
12	学習指導案の作成③指導案の検討						
13	学習指導案の作成④発表と評価						
14	社会科における評価						
15	これからの社会科教育に求められる指導力と課題						
16	試験						

 桜花学園大学 / 名古屋短期大学

2019年度

科目名	道徳の指導法	担当者	松永 康史	開講学科等	保育学部 保育学科	授業意形態	講義
免許・資格	小学校教諭1種免許状			開講時期	後期	配当学年	2
受講要件				単位数	2	必須・選択	選択
授業概要と方法							
【担当者の実務経験】小学校教諭 本授業では、元小学校教諭の経験を踏まえ、教材研究や授業実践の分析について具体的な検討を行う。また、指導方法の工夫などを学ぶことができるようとする。							
本授業では、「学習指導要領」等を理解し、学校現場において行う道徳科の目標、教育内容、指導法について理解を深める。また、児童の道徳性の発達についての知識をもち、道徳科の授業づくりを検討する。授業づくりにおいては、授業実践例の検討や教材研究を行う。その際、「考え、議論する道徳」を想定した授業づくりの力を養う。							
授業の到達目標 道徳の意義や原理を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と道徳科の目標、内容、指導計画等を理解し、児童の道徳性の発達をふまえた教材研究や授業実践の分析等を通して、授業づくりの力を身につける。							
授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修） 道徳資料の読み、指導案の作成など課題を指示することもあります。							
評価方法 定期試験80%、授業への参加態度20%							
教科書 文部科学省『小学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』							
参考図書							
適宜連絡します							
その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）							
オフィスアワー木曜休み							
授業計画							
1	道徳の本質と「考え、議論する」道徳						
2	学習指導要領の理解①：学校の教育活動全体における道徳教育						
3	学習指導要領の理解②：道徳科						
4	日本における道徳教育の歴史						
5	子どもの発達と道徳性：コーレバーグ等の理論						
6	道徳教育に関する授業理論						
7	授業実践の事例検討①：低学年						
8	授業実践の事例検討②：中学年						
9	授業実践の事例検討③：高学年						
10	学習指導案の構成と内容、作成手順						
11	資料収集と資料分析						
12	学習指導の多様な展開①：多様な教材を生かした指導						
13	学習指導の多様な展開②：指導方法の工夫						
14	道徳教育、道徳科における評価						
15	これからの道徳教育に求められる実践的指導力と課題						
16							


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	特別支援教育論	担当者	小柳津 和博	開講学科等	保育学部 保育学科	授業意形態	講義
免許・資格	小学校教諭1種免許状			開講時期	後期	配当学年	3
受講要件				単位数	2	必須・選択	選択

**授業概要と方法**

## 【担当者の実務経験】特別支援学校教諭

この授業科目では、元特別支援学校教諭としての経験を踏まえ、特別支援教育を行う場である幼稚園、小学校、特別支援学校における指導・支援方法について具体的な検討を行う。また、特別支援教育を実施するための支援計画・指導計画の作成・活用について体験的に学ぶことができるようになる。

特別支援教育の理念や課題を踏まえ、特別支援教育の対象となる子ども達への支援・指導のあり方を検討する。体験的な学習を中心にして、主体的に仲間と協力して学び合うことで、特別支援教育に携わる際に必要な知識・技能・態度を培う。

**授業の到達目標**

- ①特別支援教育の理念や課題について理解する。
- ②特別支援教育の対象となる子ども達への支援・指導のあり方について仲間と協働して検討できる。
- ③特別支援教育を支える個別の教育支援計画、個別の指導計画、連携のあり方について理解する。

**授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）**

障害児・者に係る文献、ニュース、映画などに普段から着目しておくこと。実習等でかかわった障害のある子ども、障害の疑いのある子ども等について、自分のかかわり方をまとめ、考えを整理しておくこと。

**評価方法**

授業内での発表（30%）、定期試験（40%）、授業への参加態度（30%）により総合的に評価する。

**教科書****プリント資料****参考図書**

幼稚園教育要領及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説、小学校学習指導要領及び解説（総則編）、特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領及び解説（総則編）

**その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）**

特別支援教育を進める上で大切な視点にチームワークがあります。授業外の場面でも仲間を尊重し、互いに協力しあえる関係作りを深めることで、保育・教育の現場で「協働できる」力を高めていきましょう。

連絡先：oyaizu@ohakagakuen-u.ac.jp

**授業計画**

- 1 オリエンテーション 授業概要および目標、特別支援教育の理念、現状と課題
- 2 特別支援教育を支える上での関係作り
- 3 特別支援教育を展開する場、教育課程
- 4 特別支援教育における授業・活動を計画する視点
- 5 特別支援教育における国語・算数の授業作り ※グループでの検討
- 6 特別支援教育における国語・算数の授業作り ※発表・交流・解説
- 7 特別支援教育における教科の学習指導
- 8 障害者スポーツの指導（ポッチャ・フライングディスク）
- 9 ユニバーサルな伝え方の工夫「絵カード、スケジュールボード」の作成
- 10 特別支援教育における自立活動の指導
- 11 特別支援教育における自立活動の授業作り ※グループでの検討
- 12 特別支援教育における自立活動の授業作り ※発表・交流・解説
- 13 体の動きを通した自立活動の指導
- 14 食べる・飲むことを通した自立活動の指導
- 15 生活単元学習の実践、個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成・活用、本講義のまとめ
- 16 定期試験

学校法人桜花学園


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	幼児造形A	担当者	田端 智美	保育学部	国際教養	授業意形態		
免許・資格	幼稚園教諭1種免許状・保育士資格			ども学科				
受講要件				開講時期	前期	配当学年	1	演習

**授業概要と方法****【担当者の実務経験】小学校非常勤講師**

この授業科目では、元小学校非常勤講師（図画工作専科）の経験を踏まえ、幼稚園・保育園・小学校の連携を含めた指導・支援方法について具体的な検討を行う。また発達の過程を含めた支援計画・指導計画の活動について体験的に学ぶことができるようとする。

保育者（保育教諭を含む）を目指す学生が、幼児の造形表現を見通し、支援・指導を行う際に必要な知識及び技能、表現力について、教材研究を通して身に付けることを目的とする。授業の方法としてICTの活用や協同的学修を行う。

**授業の到達目標**

造形的な保育実践に必要な表現力と知識を身につける

## (1) 保育実践に必要な表現力を身につける

保育実践に必要な造形の発想・構想の力・保育実践に必要な造形材料などの特徴を生かして表現する技術力・保育実践に必要な造形表現活動の過程から読み取る力・保育実践に必要な造形表現の方法について伝える力

## (2) 保育実践に関する知識についての理解

造形的な表現活動の意義と幼児の発達特徴・身近な造形材料（自然材・人工材等）の特徴・保育実践に必要な造形の用具の基本的・基礎的な扱いと安全性・保育実践に必要な造形活動の環境構成

## 授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）

## 授業内で詳細を提示

準備学修：自ら素材集めをして授業に備えてください。

事後学修：演習した内容についてまとめを記入してください。

その他提出課題（ポートフォリオ・ポップアップカード等）があります。

**評価方法**

学修内容の学びや気づきを活動の記録として授業題材毎のポートフォリオとしてまとめたものを学びの過程として評価（40%）その他、造形指導に関する基本的・基礎的な知識・技能を評価とする（40%）。振り返り等（20%）

**教科書**

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領、

**参考図書**

3.4.5歳児の造形活動おまかせガイド（明治図書）

その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）

保育者となったときのことのことを考え、日頃から手作りを楽しんでください。

連絡手段：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

**授業計画**

- 1 幼児の発達の特徴と表現活動の意義について（描画について）
- 2 平面演習1（ドリッピング・バチックなど）
- 3 平面演習2（マーブリング・染紙など）
- 4 平面演習3（スタンピングなど）
- 5 平面演習4（紙版画）
- 6 ポップアップカードの制作1（とび出す仕組みについて）
- 7 ポップアップカードの制作2・提出
- 8 活動を振り返って（ICTを使った活動評価とまとめ）
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16

学校法人桜花学園


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	幼児造形B	担当者	田端 智美	保育学部		
免許・資格	幼稚園教諭1種免許状・保育士資格			開講学科等	国際教養	授業意態
受講要件	幼児造形Aを履修済みであること 幼児造形Aを履修済みであること			ども学科		演習

**授業概要と方法**

## 【担当者の実務経験】小学校非常勤講師

この授業科目では、元小学校非常勤講師（図画工作専科）の経験を踏まえ、幼稚園・保育園・小学校の連携を含めた指導・支援方法について具体的な検討を行う。また発達の過程を含めた支援計画・指導計画の活動について体験的に学ぶことができるようとする。

保育者（保育教諭を含む）を目指す学生が、幼児の造形表現と小学校低学年（年少・年中）の図画工作等の学習活動を見通し、支援・指導を行う際に必要な知識及び技能、表現力について、教材研究を通して応用的に身に付けることを目的とする。授業の方法としてICTの活用や協同的学修を行う。

**授業の到達目標**

造形的な保育実践に必要な表現力と知識を応用的に身につける。

## (1) 保育実践に必要な応用的な表現力

保育実践に必要な造形の発想・構想の力を身に付ける・保育実践に必要な造形材料などの特徴を生かして表現する技術力を身に付ける・保育実践に必要な造形表現活動の過程から読み取る力を身に付ける・保育実践に必要な発展的な造形表現の方法について伝える力を身に付ける

## (2) 保育実践に関する知識

造形的な表現活動の意義と幼児の発達特徴について理解・身近な造形材料（自然材・人工材等）の特徴について理解・保育実践に必要な造形の用具の応用的・発展的な扱いと安全性について理解・保育実践に必要な造形活動の環境構成について理解

## 授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）

## 授業内で詳細を提示

準備学修：自ら素材集めをして授業に備えてください。

事後学修：演習した内容についてまとめを記入してください。

その他提出課題（ポートフォリオ等）があります。

## 評価方法

学修内容の学びや気づきを活動の記録として授業題材毎のポートフォリオとしてまとめたものを学びの過程として評価（40%）その他、造形指導に関する基本的・基礎的な知識・技能を評価とする（40%）。振り返り等（20%）

## 教科書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領、

## 参考図書

3.4.5歳児の造形活動おまかせガイド（明治図書）

その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）

保育者となったときのことのことを考え、日頃から手作りを楽しんでください。

連絡手段：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

## 授業計画

- 1 幼児の発達の特徴と表現活動の意義について（工作について）
- 2 立体演習1（空き箱を使った工作について）
- 3 立体演習2（ペットボトルを使った工作について）
- 4 立体演習3（紙皿を使った工作について）
- 5 立体演習4（紙コップを使った造形あそびについて）
- 6 製作活動を通した模擬保育1（素材を組み合わせた表現について）
- 7 製作活動を通した模擬保育2（粘土遊びについて）
- 8 活動を振り返って（ICTを使った活動評価とまとめ）
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16

学校法人桜花学園


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	保育原理	担当者	原田 明美	保育学部		
免許・資格	保育士資格	開講学科等	国際教養こども学科	授業意形態	講義	
受講要件		開講時期	前期	配当学年	1	

**授業概要と方法****【担当者の実務経験】保育所園長**

この授業科目では、元乳児院・養護施設での経験や保育所園長の経験を踏まえ、保育とは何かを自分の体験を通して、及び学びを通して深めます。そして保育はどのようにして始まり、どのようにして現在に至っているか、歴史も振り返りながら学びます。また自分自身の保育観・こども観を振り返りながら保育観を深めます。具体的な子どものイメージが出来るように、実践例を出しながら進めます。

**授業の到達目標**

- ・保育の意義及び目的について理解する・保育に関する法令及び制度を理解する・子どもの最善の利益を学び、保育の現状と課題を学ぶ中で、保育とは何か、保育とはどうあるべきかを深める。
- ・保育所保育指針等保育の基本について理解する・保育の思想と歴史的変遷・保育の現状と課題について理解する

**授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）**

- ・ボランティア経験や街の中の子どもの様子を観察してください。
- ・自分で考える、考えたことを記録する習慣を身に着けてください。
- ・主体的な参加と積極的な発言や質問を期待します。

**評価方法**

- ・授業参加・グループ討論参加態度 30 % + 小課題レポート 40 % + 最終レポート 30 %

**教科書**

- ・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領

**参考図書**

授業でその都度紹介する

その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）

**授業などで連絡する****授業計画**

- 1 保育とは何かを考える・保育の理念と概念について学ぶ
- 2 子どもの権利条約と最善の利益と保育について学ぶ
- 3 保育の社会的役割と責任について学ぶ
- 4 子ども家庭福祉の法体系における保育の位置づけと関係法令を学ぶ
- 5 子ども・子育て支援制度、保育の実施体系、及び昨今の義務教育化や保育無償化について学ぶ
- 6 保育所保育指針における保育の基本を学ぶ
- 7 幼稚園教育要領を学ぶ・幼稚園と保育所の同時点と違いを学ぶ
- 8 保育の目標と方法・内容・環境を学ぶ
- 9 保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）と循環を学ぶ
- 10 保育の思想と歴史Ⅰ（レゾー1）を学ぶ（エミール乳幼児期）
- 11 保育の思想と歴史Ⅱ（レゾー2）を学ぶ（エミール児童期）
- 12 保育の思想と歴史Ⅳ（倉橋惣三）を学ぶ
- 13 保育の思想と歴史V（戦後）を学ぶ
- 14 保育の環境：再度保育とは何かを深める
- 15 まとめ
- 16

学校法人桜花学園


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	子ども家庭福祉	担当者	原田 明美	保育学部			
免許・資格	保育士資格			開講学科等	国際教養	こども学科	講義
受講要件				開講時期	後期	配当学年	1

**授業概要と方法****【担当者の実務経験】保育所園長**

この授業科目では、元乳児院や養護施設での経験や保育所園長の経験を踏まえ、子どもの成長発達と生活を保障するために、家庭や保護者に対して子育て支援を目的として実施する種々の社会的な施策や援助を学ぶ。子ども家庭福祉の意義や歴史的背景を学ぶ。子ども家庭福祉での児童の権利を学ぶ。子ども家庭福祉の制度や実施体系を学ぶ。子ども家庭福祉の現状と課題を学ぶ。子ども家庭福祉の動向と展望を学ぶ。

**授業の到達目標**

子ども家庭福祉の意義や歴史的背景、子ども家庭福祉での児童の権利、子ども家庭福祉の制度や実施体系、子ども家庭福祉の現状と課題、子ども家庭福祉の動向と展望を理解する。

**授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）**

教科書を読んで予習を行い、疑問点など質問できるようにしておく

**評価方法**

課題レポート40%・授業参加・集団討論参加態度30%・最終レポート30%

**教科書**

保育実践と児童家庭福祉論・保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書

**参考図書****授業で紹介します****その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）**

日頃から子どもに関するニュースに关心を持ち、新聞や他の報道に接すること。本も読むこと

オフィスアワー金曜日昼休み・メールアドレスa-harada@ohakagakuenn-u.ac.jp

**授業計画**

- 1 子ども家庭福祉の理念と歴史的展開
- 2 現代社会と児童家庭福祉
- 3 子ども家庭福祉の一分野としての保育
- 4 児童の人権擁護と児童家庭福祉
- 5 子ども家庭福祉の法律と行財政
- 6 子ども家庭福祉の実施期間・施設と専門職
- 7 少子化と子育て支援サービス
- 8 母子保健と児童の健全育成
- 9 多様な保育ニーズへの対応
- 10 虐待防止、ドメスティック・バイオレンス
- 11 社会的養護
- 12 障害のある児童への対応
- 13 非行への対応
- 14 子ども・子育て支援制度の仕組み
- 15 保育と教育・療育・保険・医療などの連携とネットワーク
- 16

学校法人桜花学園


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	保育者論	担当者	原田 明美	保育学部	国際教養	授業意形態	
免許・資格	幼稚園教諭1種免許状・保育士資格			ども学科			講義
受講要件				開講時期	前期	配当学年	1

単位数	2	必須・選択	必須
-----	---	-------	----

**授業概要と方法**

## 【担当者の実務経験】保育所園長

この授業科目では、元乳児院や養護施設での経験や保育所園長の経験を踏まえ、卒業（就職）するまでに、「自分の理想の保育者像」を確かなものにし、その実現に向けて一歩づつ近づく方法を身に付けて、就職できるように学びたい。先人の保育や保育観を学びながら、常に、「自分ならどうするか」をイメージしながら授業が出来るようにしたい。15回の中で、1回はレポートの提出・発表を体験する機会を作ります。

**授業の到達目標**

- ・保育者の役割と倫理について学ぶ
- ・保育士の制度的な位置づけを学ぶ
- ・保育士の専門性について学ぶ
- ・保育者の連携・協働・資質向上・キャリア形成について学ぶ

## 授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）

- ・常に「保育とは」「保育者とは」を意識しながら、実習やボランティア・子どもと接するときに考えてください。
- ・機会あるごとに子どもの様子を観察して記録に取る

**評価方法**

小レポート40%・授業態度30%・最終30%

## 教科書

無し

## 参考図書

幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・全国保育士会倫理綱領ガイドブック・その他授業の中で紹介します

その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）

## 授業などで連絡する

オフィスアワ金曜日昼休み メールアドレスa-harada@ohkagakuenn-u.ac.jp

## 授業計画

- 1 保育者の役割と倫理について学ぶ・・保育とは何か・・保育者とはどうあるべきかを考える
- 2 保育者の仕事と役割Ⅰ 幼稚園教育要領・保育所保育指針での保育者の役割
- 3 保育者の仕事と役割Ⅱ 子ども理解と保育者の役割
- 4 保育者の仕事と役割Ⅲ 保護者理解と子育て支援での保育者の役割
- 5 保育士の制度的な位置づけを学ぶ
- 6 保育者の連携・協働について学ぶ
- 7 保育者の資質向上とキャリア形成について学ぶ
- 8 先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅠ 野口幽香
- 9 先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅡ 森島峰
- 10 先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅢ 倉橋惣三
- 11 先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅣ 近藤薰樹
- 12 先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅤ 斎藤公子
- 13 保育とは何か・・遊びを楽しくする・遊びを発展させるとは
- 14 保育とは何か・・子どもの成長発達と保育者の役割
- 15 海外の保育について学ぶ スウェーデン・ニュージーランド・デンマーク
- 16


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	保育内容指導法「生活と協同」	担当者	原田 明美	保育学部			
免許・資格	幼稚園教諭1種免許状・保育士資格	開講学科等	国際教養	こども学科	授業意形態	演習	
受講要件		開講時期	後期	配当学年	2	必須・選択	必須
		単位数	2				

**授業概要と方法**

## 【担当者の実務経験】保育所園長

この授業科目では、元乳児院や養護施設での経験や保育所園長の経験を踏まえ、現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えていたる社会的要因について理解し、保育で保障すべき保育内容に関する知識を身に付ける。特に領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で乳幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。主体的対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける

**授業の到達目標**

乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する（特に、少子化・核家族・虐待・貧困）

領域「人間関係」のねらい内容を理解し、構想し、実践力を身に付ける。

## 授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）

実習やボランティア・アルバイトなどで子どもの様子をよく観察する。また子ども同士の関りや保育者と子どもとの関り、又は保護者を含む大人と子どもの関りをよく観察すること

**評価方法**

課題レポート40%・授業参加・集団討論参加内容30%・最終レポート30%

**教科書**

幼稚園教育要領解説書・保育所保育指針解説書・幼保連携型認定こども園教育保育要領解説書

**参考図書**

## 授業で紹介します

その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）

a-harada@ohkagakuenn-u.ac.jp

オフィスアワー一金曜日昼休み

**授業計画**

- 1 人と関わる力：現代社会と乳幼児の人間関係
- 2 人と関わる力：人間関係の理論的枠組み
- 3 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領の「人間関係」
- 4 0歳児の人間関係
- 5 1歳児の人間関係
- 6 2歳児の人間関係
- 7 3歳児の人間関係
- 8 4歳児の人間関係
- 9 5歳児の人間関係
- 10 自立心・主体性をはぐくむ援助の在り方・指導案の作成と模擬授業
- 11 協力・共同をはぐくむ援助の在り方・教材研究と情報機器の活用
- 12 かみつき・いざござの援助の在り方
- 13 就学前にまでに育ってほしい姿の考察と援助の在り方
- 14 保護者との人間関係
- 15 職場での人間関係
- 16


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	保育内容指導法（環境）	担当者	原田 明美	保育学部			
免許・資格	幼稚園教諭1種免許状・保育士資格	開講学科等	国際教養	授業意形態	ども学科		演習
受講要件		開講時期	後期	配当学年	1	単位数	2 必須・選択 必須

**授業概要と方法****【担当者の実務経験】保育所園長**

この授業科目では、元乳児院や養護施設での経験や保育所園長の経験を踏まえ、現代の子どもを取り巻く環境や、乳幼児と環境との関わりについての専門的事項を踏まえ、幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、保育の構想、指導方法を学びます。環境との関わり、遊びの体験の中で子どもの認識や理解がどのように深まるかを学び、保育者がどのように指導をするのかを学びます

**授業の到達目標**

幼稚園教育要領・保育所保育指針等の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。特に乳幼児の認識についての学びを深め、環境に好奇心や探求心を持って主体的に関わり、それを生活に取り入れて関わるよう、具体的な指導案を作成し、保育構想力を身に付ける。

**授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）**

子どもの遊びに興味を持ち、自分の経験や子どもとの関わりの中で遊びの楽しさを味わってほしい。遊びをもっと楽しくする工夫やアレンジ力を身に付けてほしい。子どもの遊ぶ様子を観察して、どんな遊びをどんなふうに楽しんでいるのか観察してほしい。草花や昆虫、栽培などにも興味を持ってほしい

**評価方法**

毎回のレポート40% 授業態度30%、確認テスト30%

**教科書**

幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領

**参考図書**

授業で紹介します

その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）

オフィスアワー金曜日昼休み

メールアドレスa-harada@ohakagakuenn-u.ac.jp

**授業計画**

- 1 乳幼児の保育・教育の基本と保育内容「環境」のねらい、内容について
- 2 乳幼児の育つ環境について学ぶ
- 3 乳児期の認識の発達について学ぶ
- 4 幼児期の認識の発達について学ぶ
- 5 ごっこ遊びと子どもの発達
- 6 草花遊びと子どもの発達
- 7 構成遊びと子どもの発達
- 8 乳幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際（室内活動）
- 9 乳幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際（室外活動）
- 10 標識・文字などに関わる保育の実際・教材研究
- 11 数量などに関わる保育の実際・指導案の作成と模擬授業
- 12 図形などに関わる保育の実際・情報機器の活用
- 13 早期教育について考える
- 14 意欲・主体性・好奇心・探求心と保育の関わり・保育者の関わり
- 15 幼児期の認識の発達と遊びの関わりのまとめ・確認テスト
- 16

学校法人 桜花学園

 桜花学園大学 / 名古屋短期大学

2019年度

科目名	乳児保育	担当者	原田 明美	保育学部		
免許・資格	幼稚園教諭1種免許状・保育士資格			開講学科等	国際教養	授業意形態
受講要件				ども学科		演習

## 授業概要と方法

## 【担当者の実務経験】保育所園長

この授業科目では、元乳児院での経験や保育所園長の経験を踏まえ、乳児保育の意義や役割を具体的に検討し、乳児保育が社会で果たす役割や、0歳から2歳の発達の特徴、保育で保育者が配慮すること、乳児保育における保育者の役割、大切にしたいことなど、加えて乳児期の遊びの種類や方法を学びます。

## 授業の到達目標

人間形成の基礎である乳児期は、その後のどの発達時期と比べてみても一番目覚ましい発達を遂げる時期です。この乳児期の発達段階に合わせた保育ができるように基礎的な知識を理論を保育の事例から学びます。また教材作成等の実技を行い具体的な技能も高めていきます。

## 授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）

授業で提示する参考文献を読むこと。ボランティアなどで乳児に接する機会を多く持つこと

## 評価方法

課題レポート40%・授業参加・グループ討論参加態度30%・最終レポート30%

## 教科書

保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書、幼稚園教育要領解説書

## 参考図書

## 授業で紹介します

## その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）

この授業は、演習ですので、乳児保育を実践する力を培うため、グループ討論、教材研究とその指導法も学んでいきます。

a-harada@ohakagakuenn-u.ac.jp オフィスアワー金曜日昼休み

## 授業計画

- 1 乳児保育が社会で果たす役割
- 2 乳児保育での保育者の役割
- 3 乳児保育のこれまでとこれから
- 4 0歳児前半の発達の特徴と保育で配慮すること
- 5 0歳児後半の発達の特徴と保育で配慮すること
- 6 1歳児前半の発達の特徴と保育で配慮すること
- 7 1歳児後半の発達の特徴と保育で配慮すること
- 8 2歳児前半の発達の特徴と保育で配慮すること
- 9 2歳児後半の発達の特徴と保育で配慮すること
- 10 3歳児前半の発達の特徴と保育で配慮すること
- 11 乳児保育の内容と方法
- 12 乳児保育のあそび・教材研究
- 13 乳児保育の保育記録と保育計画Ⅰ・指導案の作成
- 14 乳児保育の保育記録と保育計画Ⅱ・情報機器の活用
- 15 乳児保育のまとめ 確認テスト
- 16

学校法人桜花学園


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	英語科教育法 I	担当者	石渡 雅之	開講学科等	学芸学部 英語学科	授業意形態	講義
免許・資格	中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）	開講時期	前期	配当学年	2		
受講要件	教職課程履修が学部により認められた者	単位数	2	必須・選択	選択必須		

## 授業概要と方法

【担当者の実務経験】中学校・高等学校教諭

この授業科目では、中学校及び高等学校教諭としての経験を踏まえ、教育現場における英語指導方法について必要な理論の検討を行う。また、中学校、高等学校での英語授業を実施するための指導計画の作成・活用についても、教育現場の最新情報を確認しながら体験的に学ぶことができるようとする。

## 授業の到達目標

a. 学習指導要領を理解し、主として中学校における教育課程編成のあり方を理解することができる。また学習指導要領における中学校での外国語教育の位置づけを理解することができる。b. 4技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）の指導方法を理解することができる。c. 英語教育諸理論、ならびに関連分野の諸理論を理解することができる。d. 主として中学校における授業を想定した指導案を作成することができる。

## 授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）

教育は大変時間が必要とされる分野である。しっかりととした理論を書籍や研究論文を通して学び、それをどのように授業実践にいかしていくべきなのか？ということを常に考えることが必要である。また、毎週4時間程度の授業外学修が必要であることに加え、英語教育に関するニュース等は常に意識して、見たり聞いたりすることが望ましい。

## 評価方法

① 授業中の小テスト ト	10%② 原書購読課題 60%	30%③ 学期末のレポート
-----------------	--------------------	---------------

## 教科書

石田雅近・小泉仁・古家貴雄（著）新しい英語科授業の実践（金星堂）笠島準一（他 代表）NEW HORIZON 1/2/3（東京書籍）

## 参考図書

文部科学省 小学校／中学校／高等学校学習指導要領

その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）

1年次の教職科目をすべて履修していること、および学習指導案の作り方を理解していることを原則とする。その他、学科教職課程委員会の定める履修規定が適用される 研究室：7311

## 授業計画

- 1 オリエンテーション（授業進行説明）
- 2 中学校教育課程編成のあり方について
- 3 試験－英語教育と語用論中学校教育課程編成のあり方について
- 4 英語教育に求められているもの
- 5 中学校授業実施のための学習指導案作成方法、および授業分析方法
- 6 中学校英語授業の現状（中間アンケート実施）
- 7 学習指導要領における外国語活動（小学校）の位置づけについて
- 8 小学校における外国語活動と英語教育
- 9 英語教授法解説
- 10 コミュニケーション能力の育成について
- 11 リスニング指導のあり方（選択的リスニング・包括的リスニング・相互作用的リスニング）
- 12 スピーキング指導のあり方（発音指導・ゲームの有用性・インフォメーションギャップをいかした指導法）
- 13 リーディング指導のあり方（スキーマ理論・音読/黙読の有効性）
- 14 ライティング指導のあり方（フリーライティングアプローチ・パラグラフパタンアプローチ・文法/統語・構成アプローチ）
- 15 授業総括／英語模擬授業について
- 16 なし


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	英語科教育法 II	担当者	石渡 雅之	開講学科等	学芸学部 英語学科	授業意形態	講義
免許・資格	中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）			開講時期	後期	配当学年	2
受講要件	教職課程履修が学部により認められた者。前期の英語科教育法 I、またはそれに相当する授業を履修済みであること。			単位数	2	必須・選択	選択必須

## 授業概要と方法

【担当者の実務経験】中学校・高等学校教諭

この授業科目では、中学校及び高等学校教諭としての経験を踏まえ、教育現場における英語指導方法について必要な理論の検討を行う。また、中学校、高等学校での英語授業を実施するための指導計画の作成・活用についても行い、それらに基づく模擬授業を多く実践し、体験的な学びを多く取り入れることとする。

## 授業の到達目標

a. 前期に学んだ英語教育理論を実践に応用することができる。b. 学校文法の正しい知識を、コミュニケーション活動を中心とした活動で学習者に伝えるような授業を考えることができる。c. 教科書をもとに、適切な学習指導案を作成することができる。d. 教師／学習者それぞれの立場で積極的に模擬授業に参加することができる。

## 授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）

教育は、その実践を行う前に大変準備時間が必要とされる分野である。模擬授業指導案は、様々な実践方法をDVDなどを通してイメージし、時間をかけて作成しなければならない。また、毎週4時間程度の授業外学修が必要であるが、その際に前期に学んだ各種英語教育理論をどのように実践にいかしていくべきなのか？ということを常にイメージしておくことが要求される。

## 評価方法

① 授業中の小テスト	10%	② 担当授業に対しての学習指導案の作成	20%	③ 模擬授業において、教師として授業をマネジメントする姿勢	50%
------------	-----	---------------------	-----	-------------------------------	-----

## 教科書

石田雅近・小泉仁・古家貴雄（著）新しい英語科授業の実践（金星堂）笠島準一（他 代表）NEW HORIZON 1/2/3（東京書籍）

## 参考図書

文部科学省 小学校／中学校／高等学校学習指導要領

その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）

前期の英語科教育法 I 受講に際し、適用される要件、並びに英語科教育法 I を履修済みであることを、原則として受講条件とする。研究室：7311

## 授業計画

- 1 オリエンテーション（授業概要説明）
- 2 模擬授業1、およびその分析（テーマ：be動詞の指導方法）
- 3 模擬授業2、およびその分析（テーマ：一般動詞の指導方法）
- 4 模擬授業3、およびその分析（テーマ：疑問詞の指導方法）
- 5 模擬授業4、およびその分析（テーマ：助動詞の指導方法）
- 6 模擬授業5、およびその分析（テーマ：過去形の指導方法）
- 7 模擬授業6、およびその分析（テーマ：進行形の指導方法）
- 8 模擬授業7、およびその分析（テーマ：不定詞の指導方法）
- 9 模擬授業8、およびその分析（テーマ：比較構文の指導方法）
- 10 模擬授業9、およびその分析（テーマ：There構文の指導方法）
- 11 模擬授業10、およびその分析（テーマ：受動態の指導方法）
- 12 模擬授業11、およびその分析（テーマ：現在完了の指導方法）
- 13 模擬授業12、およびその分析（テーマ：関係代名詞の指導方法）
- 14 講義－新学習指導要領に基づく望ましい中学校英語授業のあり方について
- 15 授業、模擬授業総括
- 16 なし

学校法人桜花学園


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	教職入門	担当者	石渡 雅之	開講学科等	学芸学部 英語学科	授業意形態	講義
免許・資格	中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）			開講時期	後期	配当学年	1
受講要件	免許課程履修が学部により認められた者			単位数	2	必須・選択	選択必須

## 授業概要と方法

## 【担当者の実務経験】中学校・高等学校教諭

この授業科目では、中学校及び高等学校教諭としての経験を踏まえ、まず教師の役割全般を概観する。その後教育現場における各科目、各領域の指導方法について必要な理論の検討を行う。具体的には教育現場で実践される「道徳」「特別活動」「総合的な学習の時間」「小学校外国語活動また、外国语」に焦点を当てて各授業を実施するための指導計画の作成・活用についても、教育現場の最新情報を確認しながら体験的に学ぶことができるようになります。ただし、小学校の領域については、本学部の免許対象外であるため、実践練習は行わず、教育現場の把握などを行うこととする。

## 授業の到達目標

a. 教職の意義、および教員の役割を認識できる。b. 教師の研修・服務・身分保障について理解することができる。c. ガイダンス機能の提供について望ましい実践方法を考えることができる。d. 新学習指導要領を分析しながら教育課程における各領域の実践方法を考えることができる。

## 授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）

学校教育に関わる様々な情報収集に努め、学校教育の実態を理解すること、またどのように授業を組み立てるか？といった実践面に意識を置くことが要求される。そして、自身が教師になるという強い意欲を持ちながら、授業で学ぶ諸教育理論を常に振り返り、どのような実践に結びつけるか、考える必要がある。尚、毎週4時間程度の授業外学修が必要であり、これを主として道徳教育の実践方法を考える時間に充てることを授業で提案する。

## 評価方法

①授業中の小エッセイ（教育評論） 授業 30%	② 学習指導案（中学校道徳）の作成 50%	③ 模擬
----------------------------	--------------------------	------

## 教科書

日本教材システム（編） 中学校学習指導要領新旧対照表

## 参考図書

文部科学省 小学校・中学校・高等学校学習指導要領／日本教育新聞社 日本教育新聞

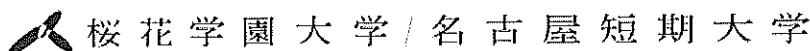
## その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）

教職課程履修に強い意欲と责任感を示す者、また学科が定める教職課程履修要件を理解した者のみ受講を許可する。研究室：7311

## 授業計画

- 1 オリエンテーション（教職課程履修の意味）
- 2 教職観と理想の教師像
- 3 学ぶことと教えること
- 4 今日の教育現場①（教師からみた教育現場）
- 5 今日の教育現場②（学習者および保護者からみた教育現場）
- 6 教員養成・教員任用の仕組み
- 7 教師の資質向上と研修のあり方
- 8 教員の職務と責任（教育公務員特例法等、関連法案解説）
- 9 学習指導・生徒指導・学級経営
- 10 教育実践力を考える①（授業の創造—教科指導について）
- 11 教育実践力を考える②（授業の創造—道徳指導について）
- 12 教育実践力を考える③（授業の創造—特別活動/ガイダンス機能について）
- 13 新しい時代の学校づくり①（開かれた学校と教師像）
- 14 新しい時代の学校づくり②（新学習指導要領の分析／小学校外国語活動を考える）
- 15 授業総括（教職課程の学び方・取り組み方）
- 16 なし

学校法人桜花学園



2019年度

科目名	教職実践演習（中・高）	担当者	石渡 雅之, 柳田 緹, 斎 孝則	開講学科等	学芸学部 英語学科	授業意形態	演習
免許・資格	中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）	開講時期	通年	配当学年	4	必須・選択	選択必須
受講要件	4年次に教育実習実施が認められた者	単位数	2				

## 授業概要と方法

## 【担当者の実務経験】中学校・高等学校教諭

この授業科目では、中学校及び高等学校教諭としての経験を踏まえ、教育現場における英語指導方法について必要な理論の検討を行う。また、中学校、高等学校、特別支援学校での教育実習と介護等体験などから、教育現場が抱える各種問題や課題を明確にして、ディスカッションなど演習形式で解決するための方法を探っていく。

## 授業の到達目標

a. 教職課程の個々の科目的履修（教育実習、及び介護等体験を含む）により修得した専門的な知識・技能を再確認することができる。b. 教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学級や教科を担任しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質・能力が身についているかどうか再確認することができる。c. 新学習指導要領を分析しながら教育課程における各領域の実践方法を考えることができる。

## 授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）

教育実習の前後も本授業は設定されている。真剣な教育実習を実施するために、また真剣に教員を目指すものとして、本授業を受けた後に1年次から学んできた全ての教職に関係する授業内容をまとめ、そこでの学びをどのように教育実践にいかすべきか？常に資料を活用しながら考え、教師を志す強い意志を持続させが必要である。

## 評価方法

① 授業中の小エッセイ（教育評論）	10%	② 各調査・研究課題に対するレポートならびに履修カルテの作成	40%	③ 学期末のレポート	50%
-------------------	-----	--------------------------------	-----	------------	-----

## 教科書

2018年度版 教員採用試験Basic定着シリーズ4 よくわかる中高英語

## 参考図書

文部科学省 中学校／高等学校学習指導要領

その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）

学科で定める諸条件を満たし、当該年度に教育実習に行くことが許可されている者。教職課程履修に強い意欲と責任感を示す者。状況によっては本授業履修に当たり、学科教職課程委員会、ならびに学科教育実習委員会の判断が必要とされる場合がある。研究室：7311（石渡）7309（柳田）7326（斎）

## 授業計画

- 1 はじめに 一この授業の目的と前期の進め方（教職実践演習とは何か？）－<担当：石渡>
- 2 講義①及び演習①-教職ポートフォリオ、教職履修カルテについて－<担当：石渡>
- 3 ディスカッション①及び講義①-現在の教育問題を考える 1-学習指導要領の変遷が意味するもの<担当：石渡>
- 4 模擬授業及び解説①-学習指導要領を考える 1-（理想的な中学校英語授業の学習指導案とは？）<担当：石渡>
- 5 模擬授業及び解説②- 学習指導要領を考える 2-（理想的な中学校英語授業の教材とは？）<担当：石渡>
- 6 模擬授業及び解説③- 学習指導要領を考える 3-（理想的な高等学校英語授業の学習指導案とは？）※中間アンケート実施予定 <担当：石渡>
- 7 模擬授業及び解説④- 学習指導要領を考える 4-（理想的な高等学校英語授業の教材とは？）<担当：石渡>
- 8 模擬授業及び解説⑤-新学習指導要領を考える 5-（理想的な中学校道徳授業の進め方）<担当：石渡>
- 9 模擬授業⑥-新学習指導要領を考える-（理想的な中学校道徳授業の教材とは？）<担当：石渡>
- 10 調査①-早期英語教育（小学校英語教育）の実態-<担当：石渡>
- 11 調査・結果発表①-早期英語教育では何を教えるのか？-<担当：石渡>
- 12 ディスカッション③-教育実習を通して見えてきたもの-学校教育と諸問題～教師の視点から～<担当：石渡>
- 13 ディスカッション④及び講義②-教育実習分析 1-（理想的な中学校英語授業分析の視点とは？）<担当：石渡>
- 14 ディスカッション⑤及び講義③-教育実習分析 2-（理想的な高等学校英語授業の視点とは？）<担当：石渡>
- 15 ディスカッション⑥及び講義④-望ましい学校教育のあり方について考える-<担当：石渡> 中学校新学習指導要領では何が求められているのか？
- 16 後期授業の進め方説明、後期調査①教育実習を介護等体験はどう生かすのか？<担当：斎・柳田>
- 17 後期講義①及び調査②-望ましい介護等体験のあり方について（特別支援学校調査）<担当：柳田・（専門家による講話を予定）>
- 18 後期発表①-介護等体験では何を学ぶのか？（特別支援学校）<担当：柳田>
- 19 後期講義②及び調査③-望ましい介護等体験の在り方について（老人福祉施設調査）<担当：柳田>
- 20 後期発表②-介護等体験では何を学ぶのか？（老人福祉施設）<担当：柳田>
- 21 後期講義③及びディスカッション①-教育実習を振り返る 1-（理想的な高等学校英語授業とは？）<担当：柳田>
- 22 後期ディスカッション②- 教育実習を振り返る 2-（学校教育と諸問題～生徒の視点から～）<担当：柳田>
- 23 後期ディスカッション③- 教育実習を振り返る 3-（学校教育と諸問題～保護者の視点から～）<担当：柳田>
- 24 後期ディスカッション④-教育実習を振り返る 4-（生徒指導の意味とは何か？）<担当：柳田>
- 25 後期講義③及びディスカッション⑤-教育現場の問題を考える 1-（不登校といじめ）-<担当：柳田>
- 26 後期講義④及びディスカッション⑥-教育現場の問題を考える 2-（教師の社会性と対人関係構築能力）<担当：斎>
- 27 後期講義⑤及び調査④-望ましい発音指導のあり方とは<担当：斎>
- 28 後期ロールプレイ①及び発表③-望ましい発音指導の実際<担当：斎>
- 29 後期ロールプレイ④及び調査⑤-英語教師に必要な英語力とは何か？-1 <担当：斎>
- 30 後期講義⑥及びディスカッション⑦-総括一英語教師に必要な英語力とは何か？-2 <担当：斎>
- 31 なし

学校法人桜花学園


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	英語科教育法 III	担当者	柳田 紗	開講学科等	学芸学部 英語学科	授業意形態	講義
免許・資格	中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）			開講時期	前期	配当学年	3
受講要件	教職課程履修が学部により認められた者、及び原則として英語科教育法IとIIを履修していること			単位数	2	必須・選択	選択必須

**授業概要と方法****【担当者の実務経験】高等学校教諭**

この授業科目では、元高等学校教諭としての経験を踏まえ、高等学校における英語の指導方法について具体例を示し、理論と実践を繋げながら学ぶ。また、高等学校での英語教育を実施するための指導案作成・教材作成・評価方法について体験的に学ぶことができるようとする。

本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力」をつけ、それらを将来教育分野において生かすことが意識されている。2年次に学んだ英語科教育法を更に発展させ、主に高等学校における教育課程編成のあり方を学ぶ。統いて英語科各科目の位置付け、目標などについて学び、英語授業を適切に行うための諸理論を学んでいく。使用テキストを概観しながら、學習指導要領と高校教科書を同時に分析していく。そして教科や科目の目標について講義を行う。必要に応じてディスカッションや発表を取り入れる。

**授業の到達目標**

A 高等学校における教育課程編成のあり方を理解することができる。また、教育課程全体の中における英語科各科目教育の位置づけ・目標について理解することができる。B 高等学校における英語授業の具体的な指導方法、および「授業分析方法と指導案作成方法」等の英語教育諸理論を理解することができる。C 高等学校外国語科の學習指導案を作成することができる。

**授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）**

できるだけ多くの英語教育関連図書を読み、また時間を作り、ワークショップや研究会に出席する事を強く薦める。授業外学修は最低4時間とする。

**評価方法**

①授業内パフォーマンス課題 30% ②英語教育関連図書購読課題 40%

③中間・期末テスト 30%

**教科書**

基礎から学ぶ英語科教育法（岡田圭子 他著、松柏社）

**参考図書**

文部科学省 中学校／高等学校学習指導要領。その他授業時に指示する。

**その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）**

オフィスアワーを含め、必要な連絡方法については授業時に指示する。

**授業計画**

- 1 コース紹介、シラバス説明、英語教育の目的とは
- 2 英語教師論（英語教師として必要な知識・技術）
- 3 学習者論（学習者要因・学習ストラテジー）
- 4 言語習得と言語教育
- 5 教授法
- 6 学習指導要領・教科書分析（小・中・高等学校の連携）
- 7 学習指導要領・教科書分析（高等学校）
- 8 4技能と音声・語彙・文法指導
- 9 リスニング指導
- 10 スピーキング指導
- 11 リーディング指導
- 12 ライティング指導
- 13 ティーム・ティーチング・異文化理解教育
- 14 評価とテスト
- 15 教材研究・指導案
- 16 なし

学校法人桜花学園


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	英語科教育法Ⅳ	担当者	柳田 純	開講学科等	学芸学部 英語学科	授業意形態	講義
免許・資格	中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）			開講時期	後期	配当学年	3
受講要件	教職課程履修が学部により認められた者、及び原則として英語科教育法I、II、IIIを履修していること			単位数	2	必須・選択	選択必須

**授業概要と方法****【担当者の実務経験】高等学校教諭**

この授業科目では、元高等学校教諭としての経験を踏まえ、高等学校における英語の指導方法について具体例を示し、理論と実践を繋げながら学ぶ。また、高等学校での英語教育を実施するための指導案作成・教材作成・評価方法について、英語科教育法Ⅲで学んだことを模擬授業で実践して身に付けることができるようとする。

本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力」をつけ、それらを将来教育分野において生かすことが意識されている。英語科教育法Ⅳでは、教育実習で実際に英語授業を行うために必要な訓練を行う。前期の同授業Ⅲに続き、より実践に近い形を想定してこの授業を位置付ける。前期に学んだ英語教育諸理論を授業実践の中でどのように生かすかということを考える機会にすることが、本授業の最終的な目標である。

**授業の到達目標**

A 前期に学んだ英語教育理論を実践に応用することができる。B 学校文法の正しい知識を、コミュニケーション活動を中心とした活動で学習者に伝えるような高校の授業を考えることができる。C 高校の教科書をもとに、適切な学習指導案を作成することができる。D 教師／学習者それぞれの立場で積極的に模擬授業に参加することができる。

**授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）**

できるだけ多くの英語教育関連図書を読み、また時間を作り、ワークショップや研究会に出席する事を強く薦める。授業外学修は最低4時間とする。

**評価方法**

模擬授業（50%）、図書課題（20%）、指導案・レポート（30%）

**教科書**

基礎から学ぶ英語科教育法（岡田圭子 他著、松柏社）

**参考図書**

文部科学省 中学校／高等学校学習指導要領。その他、授業時に指示する。

**その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）**

オフィスアワーを含め、必要な連絡方法については授業時に指示する。

**授業計画**

- 1 オリエンテーション（授業進行説明）、発音・音読の指導
- 2 コミュニケーション活動のデザインと実施（1）
- 3 コミュニケーション活動のデザインと実施（2）
- 4 評価とテスト
- 5 標準的授業構成と授業のモデル
- 6 指導案検討と模擬授業（1）5文型
- 7 指導案検討と模擬授業（2）時制
- 8 指導案検討と模擬授業（3）助動詞
- 9 指導案検討と模擬授業（4）受動態
- 10 指導案検討と模擬授業（5）不定詞
- 11 指導案検討と模擬授業（6）動名詞
- 12 指導案検討と模擬授業（7）分詞
- 13 指導案検討と模擬授業（8）関係詞
- 14 指導案検討と模擬授業（9）比較
- 15 指導案検討と模擬授業（10）仮定法
- 16 なし


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	English Phonetics I	担当者	柳田 綾 鈴木 基伸	学芸学部	授業意形態	講義	
免許・資格	中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）			英語学科			
受講要件	There are no prerequisites for this course.			開講時期	前期	配当学年	2

**授業概要と方法****【担当者の実務経験】**高等学校教諭

この授業科目では、元高等学校教諭としての経験を踏まえ、日本人学習者が誤りやすい個別の英単語の発音・アクセント・リズム・イントネーションについて明示的に指導を行う。また、学習者の高等学校までの文法と音声に関する既習知識の復習を行う。各種の理論が習得できているかどうかを、録音課題と実技課題を通して個別に指導を行う。

This course is related to the "practical English communication ability" mentioned in SLADE diploma policy. English Phonetics I is a required course. This course introduces the basic training for mastering English sound system, particularly putting emphasis on American English. Students will learn intonation, liaison, pronunciation of phrases and sentences as well as articulation mechanism of English vowels. They will also learn International Phonetic Alphabets.

Although English Phonetics I is a lecture course, a lot of practice time will be provided. Students will listen to audios on the Class Moodle site at home and submit reading assignments. In class, they will be asked to demonstrate the production of English sound they have learned.

**授業の到達目標**

Upon successful completion of this course, students will be able to

1. understand the English vowel system.
2. understand the English rhythm system and intonation system.
3. understand reduction, linking, assimilation system of English.
4. understand the consonant clusters of English syllable structure.
5. understand the basic differences in sound system between Japanese and English.
6. pronounce words and phrases with correct stress pattern.
7. understand the basic phonetics terminology and phonetic alphabets.

**授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）**

To understand English pronunciation system and reproduce them will help students to have better listening abilities and to have better communication with native speakers, because they will understand you more easily. Therefore, students must spend at least 4 hours practicing for their assignments, quizzes, and performance tests.

**評価方法**

1. quizzes (15%)
2. IPA test (10%)
3. submit assignments and do performance in class (55%)
4. submit weekly reflections and submit semester reflections (20%)

**教科書**

Sounds Make Perfect 英語音声学への扉 ~発音とリスニングを中心に~ 今井由美子他 英宝社

**参考図書**

To be supplied by the instructor or they will be available on Moodle.

**その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）**

Students are required to bring their computers to class. The instructor's email address and office hours will be notified in the first class.

**授業計画**

- 1 Introduction to Course, explanation of the syllabus, computer and the Class Moodle
- 2 Stress and intonation, intonation and meaning
- 3 English syllabic structures and Japanese syllabic structures
- 4 Stress and intonation, intonation and meaning
- 5 Front vowels
- 6 Mid vowels
- 7 Back vowels
- 8 Diphthongs 1
- 9 Diphthongs 2
- 10 Linking 1
- 11 Linking 2
- 12 Reduction 1
- 13 Reduction 2
- 14 Assimilation 1
- 15 Review of the course and semester reflection
- 16 None

学校法人桜花学園


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	English Phonetics II	担当者	柳田 純、鈴木 基伸	開講学科等	学芸学部 英語学科	授業形態	講義
免許・資格	中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）			開講時期	後期	配当学年	2
受講要件	There are no prerequisites for this course			単位数	2	必須・選択	必須

## 授業概要と方法

## 【担当者の実務経験】高等学校教諭

この授業科目では、元高等学校教諭としての経験を踏まえ、日本入学習者が誤りやすい個別の英単語の発音・アクセント・リズム・イントネーションについて明示的に指導を行う。また、学習者の高等学校までの文法と音声に関する既習知識の復習を行う。学習者の音声に対する興味・関心を高めるために各種映像・音楽・映画も活用する。音声学的理論が習得できているかどうかを、録音課題と実技課題を通して個別に指導を行う。

This course is related to the "practical English communication ability" mentioned in SLADE diploma policy. English Phonetics I is a required course. This course introduces the basic training for mastering English sound system, particularly putting emphasis on American English. Students will learn intonation, liaison, pronunciation of phrases and sentences as well as articulation mechanism of English consonants. They will also learn International Phonetic Alphabets. Although English Phonetics II is a lecture course, a lot of practice time will be provided. Students will listen to audios on the Class Moodle site at home and submit reading assignments. In class, they will be asked to demonstrate the production of English sound they have learned.

## 授業の到達目標

Upon successful completion of this course, students will be able to

1. understand the English vowel and consonant system.
2. understand the English rhythm system and intonation system.
3. understand reduction, linking, assimilation system of English.
4. understand the consonant clusters of English syllable structure.
5. understand the basic differences in sound system between Japanese and English.
6. pronounce words and phrases with correct stress pattern.
7. understand the basic phonetics terminology and phonetic alphabets.

## 授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）

To understand English pronunciation system and reproduce them will help students to have better listening abilities and to have better communication with native speakers, because they will understand you more easily. Therefore, students must spend at least 4 hours practicing for their assignments, quizzes, and performance tests.

## 評価方法

1. summer homework (10 %)
2. quizzes & IPA test (25%)
3. submit assignments and do performance in class (55%)
4. submit weekly reflections and a semester reflection (10%)

## 教科書

Sounds Make Perfect 英語音声学への扉 ~発音とリスニングを中心に~ 今井由美子他 英宝社

## 参考図書

To be supplied by the instructor or they will be available on Moodle.

## その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）

Students are required to bring their computers to class. The instructor's email address and office hours will be notified in the first class.

## 授業計画

- 1 Introduction to Course, explanation of the syllabus and the Class Moodle
- 2 Stop consonants
- 3 Fricative consonants
- 4 Fricatives and affricates
- 5 Nasals
- 6 Lateral and semi-vowels
- 7 Assimilations 2, consonant cluster 1
- 8 Phrasal verbs and stress, consonant cluster 2
- 9 Compound words and stress, consonant cluster 3
- 10 Pause
- 11 Learn pronunciation in a movie 1
- 12 Learn pronunciation in a movie 2
- 13 Intonation pattern (exclamation, superlative, emphasis)
- 14 Intonation pattern (speaker's intention)
- 15 Review of the course and semester reflection
- 16 None

学校法人桜花学園


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	観光学概論	担当者	根尾 文彦	開講学科等	学芸学部 英語学科	授業意形態	講義
免許・資格				開講時期 単位数	前期 2	配当学年 必須・選択	1 選択

## 授業概要と方法

## 【担当者の実務経験】旅行会社勤務

この授業科目では、元旅行会社での長年の勤務経験を踏まえて、我が国の観光の現状を具体的な事例を参考しながら検討を行う。ここ15年の間にわが国の観光に対する取り組み施策は大きく進展した。その実態をさまざまな角度から検証し、今後の方向性を考える場とする。

本授業は学芸学部のディプロマポリシーにある現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力を身につけることが望まれる。少子高齢社会の中、ここ10年来で我が国の重要な成長戦略の柱の一つになった「観光」について、観光資源・観光産業・観光政策の観点から、その歴史的背景の基礎を学びます。その上で我が国の観光政策に対する理解を深める。講義スタイルが中心であるが、画像・映像などを多用することにより理解しやすい内容とし、グループ討議を取り入れる。各授業をまとめたレポート提出2回。

## 授業の到達目標

①我が国の観光の歴史や観光資源、観光産業などについて基本的な知識を習得する。②我が国の観光政策の現状を理解し、それぞれの課題に対して自分なりの意見を持てるようにする。

## 授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）

新聞、本、TV等から情報を入手し、社会情勢に対して強い関心を持つ。予習復習併せて毎週4時間程度の学習が望まれる。

## 評価方法

授業への参加態度（10%）、定期試験（70%）、その他レポート（20%）を総合して評価する。

## 教科書

特になし、プリントを配布。

## 参考図書

観光関連専門雑誌（例）『トラベルジャーナル』など

その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）

連絡先 neo@ohkagakuen-u.ac.jp

研究室 7307号室

## 授業計画

- 1 観光の定義と概念（観光のもたらす様々な効果）
- 2 観光の歴史（中世～近世～明治～大正時代の観光）
- 3 観光の歴史（昭和～平成時代の観光）
- 4 観光の歴史（現代の観光）
- 5 世界の観光産業、レポート提出①
- 6 我が国における観光の現状と課題（国内旅行）
- 7 我が国における観光の現状と課題（海外旅行）
- 8 我が国における観光の現状と課題（訪日旅行）
- 9 我が国における観光の現状と課題（地域創生、観光まちづくり） 我が国における観光の現状と課題（地域創生、観光まちづくり）
- 10 観光資源 ①、レポート提出②
- 11 観光資源 ②
- 12 観光政策と観光行政
- 13 観光関連産業（運輸機関）
- 14 観光関連産業（宿泊機関）
- 15 観光関連産業（旅行業）
- 16 定期試験

学校法人桜花学園


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	観光政策論	担当者	根尾 文彦	開講学科等	学芸学部 英語学科	授業意形態	講義
免許・資格				開講時期	後期	配当学年	3
受講要件				単位数	2	必須・選択	選択

**授業概要と方法****【担当者の実務経験】旅行会社勤務**

この授業科目では、元旅行会社での長年の勤務経験を踏まえて、我が国の行政による観光政策の変遷及び社会的効果等について、具体的な事例を参考しながら検討を行う。ここ15年の間にわが国の観光に対する取り組み施策は大きく進展した。その実態をさまざまな角度から検証し、今後の方向性を考える場とする。

本授業は学芸学部のディプロマポリシーである現代社会において必要とされる情報リテラシーを習得し国際社会に貢献できる能力を身につけることが望まれる。少子高齢社会である我が国の観光政策も大きく変化している。現代の大きな課題である「訪日観光（インバウンド）」と「観光まちづくり」の基本施策を学ぶ。これらの政策の必要性の社会的背景を理解し、政策の現状を把握し課題を抽出しその方向性を模索する。同時に「日本人海外旅行」も伸び悩んでおり、今後は一層の大胆な政策が必要となる。本授業ではこの3項目の基礎知識を習得し、それぞれのテーマ毎にレポートにまとめて発表する。（3回）

**授業の到達目標**

①訪日観光（インバウンド）の現状を把握し、課題を抽出する。②観光まちづくりの現状を把握し、課題を抽出する。地元の町について調査し課題と解決策をまとめる。③日本人海外旅行の現状を把握し、課題を抽出する。

**授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）**

観光専門雑誌（㈱トラベルジャーナル発行、発行人 森谷博）『週間トラベルジャーナル』（図書館）などを読み基礎知識を身に付ける。事前、事後学習として週に4時間程度の学習を目指す。

**評価方法**

授業への参加態度（50%）、レポート内容（50%）

**教科書**

特になし、プリントを配布する

**参考図書**

観光関連専門雑誌（㈱トラベルジャーナル発行）『トラベルジャーナル』など

その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）

連絡先 neo@ohkagakuen-u.ac.jp

研究室 7307教室

**授業計画**

- 1 現在の我が国の観光の状況と社会的背景
- 2 これまでの観光政策（訪日旅行）
- 3 訪日旅行の現状と課題 ①
- 4 訪日旅行の現状と課題 ②
- 5 訪日旅行の現状と課題 ③
- 6 グループディスカッション及びレポート（訪日旅行）
- 7 これまでの観光政策（地方創生）
- 8 観光まちづくりの現状と課題 参考事例①
- 9 観光まちづくりの現状と課題 参考事例②
- 10 観光まちづくりの現状と課題 参考事例③
- 11 観光まちづくりの現状と課題 参考事例④
- 12 グループディスカッション及びレポート（観光まちづくり）
- 13 日本人海外旅行の現状と課題 ①（これまでの歴史）
- 14 日本人海外旅行の現状と課題 ②（今後において望まれること）
- 15 グループディスカッション及びレポート（日本人の海外旅行）
- 16 なし


**桜花学園大学 / 名古屋短期大学**

2019年度

科目名	観光マーケティング	担当者	根尾 文彦	開講学科等	学芸学部 英語学科	授業形態	講義
免許・資格				開講時期	後期	配当学年	1
受講要件				単位数	2	必須・選択	選択

## 授業概要と方法

## 【担当者の実務経験】旅行会社勤務

この授業科目では、元旅行会社での長年の勤務経験を踏まえて、我が国の観光産業の変遷及び社会的効果等について、具体的な事例を参考しながら検討を行う。ここ15年の間にわが国の観光に対する取り組み施策は大きく進展した。その実態をさまざまな角度から検証し、今後の方向性を考える場とする。本授業は学芸学部のディプロマポリシーにある現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力を身につけることが望まれる。現代企業において最も重要な活動の一つであるマーケティングの基本を学びながら、観光産業における様々な例題を参照してマーケティングの観点から課題を具体的に分析する。またマーケティングの実務体験としてグループワークでマーケティングの環境分析を行い発表する。レポート提出2回。

## 授業の到達目標

①一般的なマーケティングの基礎知識を習得する。②幅広い視野を持つ観光産業の具体的な事例を参考に現状を分析することにより、その実体を理解すると同時に、課題などに対して自分なりの意見を持てるようになる。

## 授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）

新聞、本、TV等から情報を入手し、社会情勢に対して強い関心を持つ。予習復習を併せて毎週4時間程度の学習が望まれる。

## 評価方法

授業への参加態度（10%）、定期試験（70%）、レポート（20%）を総合して評価する。

## 教科書

特になし、プリントを配布

## 参考図書

観光関連専門雑誌（例）トラベルジャーナル発行）『トラベルジャーナル』など

その他（学生へのアドバイス、連絡手段等）

連絡先 neo@ohkagakuen-u.ac.jp

研究室 7307号室

## 授業計画

- 1 一般的マーケティングの基本
- 2 観光産業のマーケティング・ミックス（4P）
- 3 人の購入行動（ニーズ・ウォンツ・需要の違い）
- 4 顧客は誰？（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、ドメイン）
- 5 購買意思決定プロセス
- 6 旅行商品の流通
- 7 競争戦略（価格戦略）①
- 8 競争戦略（価格戦略）②
- 9 マーケティングの環境分析及び発表 ①
- 10 マーケティングの環境分析及び発表 ②
- 11 商品のライフサイクル
- 12 プロモーション（販売促進）
- 13 競争戦略（ブランド戦略）
- 14 顧客管理
- 15 マーケティング・リサーチ
- 16 定期試験